

笠間市地域おこし協力隊 活動報告

No. 65

プロフィール

大坪

桂

(64歳)

千葉県から移住

民泊で笠間の魅力のさらなる向上を！



住宅宿泊事業法説明会

今年度、5月から8月にかけて実施した「笠間ふれあい体験旅行」では、計693名(うち海外から64名)が市内で民家体験・体験学習を行いました。受け入れてくださった民家さんから「中学生から元気をもらいました！」というたくさんの方の声をいただきました。また、体験に参加した中学生のアンケートでは、「楽しかった」「また笠間に来たい」と答えた生徒がともに98%と高い満足度を得ることができました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

さて、昨年6月に「住宅宿泊事業法」(民泊新法)が施行され、県に住宅宿泊事業の届け出をすれば、自宅にお客さんを泊めて宿泊料を受け取ることができるようになります。笠間市の観光を推進するうえで、宿



民家体験の子ども達と記念撮影

泊施設が少ないという問題点があります。民泊の受け入れを拡大することでその課題を解消し、イベントや体験を民泊と組み合わせることで市の魅力向上につながることを期待されます。11月9日に実施した「住宅宿泊事業法説明会」には20名を超える方に参加していただき、経験者を交えて熱い議論を交わし、民泊にチャレンジしてみようという市民の皆さんの意気込みを感じることができました。今後も関係機関と連携してこの取り組みを推進していきます。民泊に関心のある方は、気軽に大坪までご連絡ください。

【連絡先】

090(5765)0544

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

ブログやフェイスブック
もご覧ください

ブログ▶<http://ameblo.jp/kasamart-wa/>
Facebook▶<http://www.facebook.com/Kasamartowa>

【問い合わせ】

まちづくり推進課(内線538)

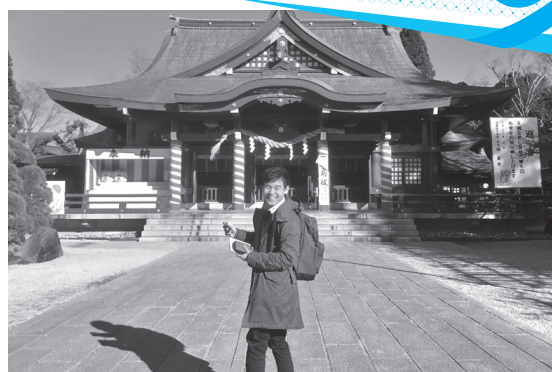
Don't worry, be happy.

日本に来て、疑問に思っていたことや抵抗があったことのひとつに「しょうがない」という言葉があります。アメリカ人は「しょうがない」という言葉に抵抗がある人が多いかもしれません。なぜなら「しょうがない」=「あきらめる」と捉えるので、弱い人しか言いません。ゆえに、問題が起きた時に、日本人はもがいたり、抵抗したり、戦ったりせずに「しょうがない」とすることに対し「Why Japanese people?!」とっていました。

もちろん、場面によってはアメリカ人の挑戦的な姿勢は正しいかもしれません。己が信じた道のためにあきらめずに頑張るのは大切なことです。

しかし、日本人の「しょうがない」はただ「あきらめる」という意味ではなく、「受け入れる」というポジティブな意味があると思うようになって、「しょうがない」という言葉が好きになりました。口癖になったというわけではなく、物事を受け入れて前に進むという考え方に感動しました。

問題が起きて、どうにもならないことを心配したりイライラしたりするより、「しょうがない」と受け入れて、



Happy New Year!
I hope you have a good one :)

どうすべきかに集中した方がよほど建設的な行動なのではないでしょうか。とてもポジティブな言葉で好きです。

今年もたくさん人と交流し、さまざまな意見を交換し合って、ポジティブな1年にしていきます。今年もよろしくお願いします！

【問い合わせ】市民活動課(内線133)